

## 「世界の行政官とおしゃべりしよう！ Diverse Voices

### ～世界とつながるジェンダー対話～

(主催：小倉英会話カフェ&スクール、(公財)アジア女性交流・研究フォーラム、  
北九州市立男女共同参画センター・ムーブ)

◇日時 2025年11月1日(土) 13:30-17:00(3.5H)

◇場所 北九州市立男女共同参画センター・ムーブ  
5階大セミナールーム、小セミナールーム、企画ルーム1、4階工芸室

#### ◇プログラム

- ・オープニングセッション (各国の行政官による発表)
- ・多国籍パネルディスカッション (グループディスカッション(20分×3ラウンド))  
テーマ ①「家事と育児の分担について」  
②「職場での性別による期待」  
③「デート文化とジェンダー平等」
- ・アクティビティ(各国文化の体験)
- ・クロージング&ネットワーキング

◇参加者 77人

一般参加者 42人

行政官 7か国8名

(フィリピン(1)、インド(2)、パキスタン(1)、ソロモン(1)、  
パプアニューギニア(1)、ベリーズ(1)、ナイジェリア(1))

市民通訳、ファシリテーター他 27人

#### ◇行政官

JICA「行政官のためのジェンダー主流化政策 2025」研修員 8名

Ms.CASTILLO GLADDEN Stacie Vanessa ステイシーさん(ベリーズ)

Mr.KEMBHAVI Arunkumar アルンクマールさん(インド)

Ms.BHATIA Katyayani カティアさん(インド)

Ms.ODEMUYIWA Afolabi Marian ミーミーさん(ナイジェリア)

Ms.Shazia シャージさん(パキスタン)

Ms.NONDEBIA Lithiana Tami リティさん(パプアニューギニア)

Ms.MOHAMMAD Rohaniya ローさん(フィリピン)

Ms.LINGI Laniata ラニさん(ソロモン諸島)

#### ◇司会

中野 大河(小倉英会話カフェ&スクール)

## 【実施内容】

今年の「世界の行政官とおしゃべりしよう！」は小倉北区で英会話スクールや国際交流イベントを主催する「小倉英会話カフェ&スクール」とムーブとの共催で開催しました。JICA「行政官のためのジェンダー主流化政策 2025」研修受講のため来日中の世界7か国8名の行政官たちと、市民との国際交流会を行いました。市民と行政官たちは、身近なジェンダーについて考えるディスカッションやアクティビティを通じて文化交流を行い、互いの国のジェンダー規範の共通点や相違点について話し合いました。それぞれの国の文化について関心と理解が深まる貴重な機会となりました。

### ■ オープニングセッション（各国行政官による発表） ■

イベントのはじめに、各国の行政官のみなさんに、自分たちの国の魅力とジェンダーの課題について発表していただきました。短い時間の中で、自分たちの国をいかに紹介するか、行政官のみなさんの熱のこもったプレゼンテーションの様子が印象的でした。

#### ◆ステイシーさん（ベリーズ）



ステイシーさんはベリーズで女性の権利保護と促進を目的として設置されている政府機関（NWC）の行政官です。西アフリカ人と先住民のカリブ族およびアラワク族の子孫からなるガリフナ族のガリフナ文化を紹介してくれました。ガリフナ文化における男性と女性の役割は、伝統とコミュニティ生活の保護においてとても重要であり、女性は言語と食べ物を通じて文化の保持者と見なされ、男性は音楽とリーダーシップを通じて伝統を表現し、共に団結と平等を促進しているそうです。



#### ◆カティアさんとアंकマールさん（インド）

今回、インドからは飲料水衛生局と財務省から二人の行政官が研修に参加しました。インドの文化や女性の活躍について話すアंकマールさんとカティアさんです。宇宙開発、農村地域、政治分野などで活躍する女性たちについて紹介してくれました。

#### Gender perspective



### ◆ミーミーさん（ナイジェリア）



ミーミーさんは、ナイジェリアで女性の権利擁護、ジェンダー平等と女性の権利に焦点を当てた啓発キャンペーンの企画・実施、ジェンダー関連のプログラムやプロジェクトの企画・実施などの担当官として活躍されています。女性のエンパワーメントは大きく前進していますが、伝統的な男女の役割が尊重されている農村部にはいまだ課題が多いということです。



### ◆シャジアさん（パキスタン）



シャジアさんはパキスタンの政府女性開発局でアシスタントディレクターとして従事しています。

パキスタンでは、特に教育の分野で男女平等の面で一定の進歩を遂げた一方で、法整備や政治、経済の分野で女性に対する差別や暴力につながる根深い社会規範があるということです。



### ◆リティさん（パプアニューギニア）



リティさんはパプアニューギニア（PNG）で上級 GESI（Gender quality and Social Inclusion：ジェンダー平等と社会的包摂）行政官として活躍されています。イベント当日は伝統的な衣装とフェイスペインティングで参加してくれました

PNG は大小 600 もの島々からなっており、800 にも及ぶ言語が話され、部族間のコミュニケーションをとることも容易ではないそうです。部族の多様性を尊重するために、リティさんは複数の言語を習得し、今なお 2 つの言語を学んでいるそうです。

### ◆ローさん（フィリピン）



ローさんはイスラムミンダナオ・バンサモロ自治地域で、ジェンダーと開発の専門職行政官です。

最近の進展の一つとして、コタバト市における女性経済エンパワーメント・ファシリティ（WEF）の設立を挙げてくださいました。この取り組みは、生計支援、技能訓練、起業機会へのアクセスを提供することで、バンサモロに住む女性の経済参加を強化することを目的としているそうです。



■多国籍パネルディスカッション（8グループに分かれてのグループディスカッション）■  
各テーブルに行政官1人と、通訳サポーター、参加者さん5名程で1グループとなり、  
「家事と育児の分担について」「職場での性別による期待」「デート文化とジェンダー平等」3つのテーマについてディスカッションを行いました。

#### テーマ①「家事と育児の分担について」

##### 〈参加者の皆様の意見〉

- ・我が家では、家事は母と娘の自分が担い、父は何もしない。父は定年退職して時間はあるのに、ソファに座ったままで動かない。自分自身はその状況にモヤモヤする。
- ・家事は好きではないので、誰か1人が担うのではなく、分かち合うべき。
- ・家事・育児にもっと時間を使いたくても、仕事の帰りが遅くなるなど、長時間労働が妨げになっている。個人の思いだけでは状況を変えるのは難しい。
- ・子供が熱を出すと当たり前のように、女性が休みを取り迎えに行かないと行けない。
- ・日本は固定観念で、女性は家を守らなければならない様な風習がある。女性も経済的・精神的に自立することを日本の学校では教えていない。
- ・男女（夫婦）の家事と育児の分担についての最近の傾向はシェアする方向にあるのではないかと思う。（ただ、十分ではない。）

##### 〈行政官の意見〉

- ・自分の家庭では、私が仕事をしているので夫も家事・育児を担っているが、それはベリーズでは一般的なことではないと思う。親世代のサポートも大事。
- ・直接向き合って、言いにくいことでもダイレクトに伝えることが大事。遠慮して言葉が足りないと、相手にうまく伝わらない。それから教育が大事だ。
- ・自分が望む家族の関係性を考えた。男性を含めて家族全員で家事・育児を担うという理想の実現に向けて、丁寧にコミュニケーションを重ねた。
- ・男性にも（家事・育児）のノルマを課すべきだと思う。
- ・女性が長時間働くことへの支援として、行政・民間ともに、働く場所への託児スペースの設置が法律で定められている。また、社会的に、2ファミリーシステム（両親世帯による支援）が推奨されており、拡大家族の世帯が多い。

#### テーマ②「職場での性別による期待」

##### 〈参加者の皆様の意見〉

- ・仕事でモヤモヤしていることがある。自分は女性だが職場は女性が少なく、その中で仕事のジェンダーバランスを取らないといけないため、いろいろな行事に参加しないといけない。忙しすぎる。
- ・考えてみると、男性社員からコピーなど簡単な業務を頼まれることが多い。

- 男女で仕事の質・量に差があまりないのに、給与に差がある。これまで続いているので、あたりまえの感覚、諦めている。また、事務は女性、営業は男性。
- 最近転職した。前の職場は、女性が早く出勤して全員の机をふいていた。今の会社では一切なく、コーヒーマシーンが設置されている。
- ジェンダー問題、男女共同参画の問題は、こんなところでは（ムーブ等では）話題になるものの、他のところでは殆ど話題にならない。

#### 〈行政官の意見〉

- インドでは、女性の役職者も結構いる。産休・育休は女性の評価のマイナスにはならない。
- 女性が男性に頼らずに、自立して生活できるよう支援を行っている。その一つの試みとして、女性がどうやって男性に頼らずに貯蓄できるかというプロジェクトがある。これは、家庭に貯金箱を設置し、女性が毎日少しずつ積み立てていくというもの。  
教育を受けていない人々が一定層おり、銀行を利用することへのハードルが高いため、家庭において貯蓄するよう促している。

### テーマ③「デート文化とジェンダー平等」

#### 〈参加者の皆様の意見〉

- 大学生でも、「男性がお金を払う」文化は強く残っていると感じる。自分は「割り勘派」だが、私の周囲を見るとそれは少数派だと思う。女性自身も、平等を主張しながらおごってもらう現実を見ると、甘えていると感じる。
- 九州は東京など都市圏よりも、男性が主導するという文化が結構根強い。
- 行政官：恋愛結婚の場合、親は許すのか？  
⇒ 参加者：場合による。以前は家柄、学歴、苗字などが問題となっていた。今は状況が変わっている。  
⇒ 参加者：家柄、学歴、苗字が問題となるような話はZ世代としては理解しがたい。
- 行政官：Z世代は結婚したいのか？日本では恋愛結婚なのか？どこで出会うのか？  
⇒ 参加者：友人は、バイト先、職場、マッチングアプリなどで出会っている。  
⇒ 行政官：インドでも恋愛結婚が増えている。  
⇒ 参加者：日本では親が心配して親同士でお見合いを勧めたり、行政がマッチングイベントを行っている。
- 行政官：日本では女性は結婚したくないのか？  
⇒ 参加者：パートナーと一緒に住んでいるが、結婚にメリットを感じないのでまだ結婚していない。  
⇒ 行政官：そのようなことが世界中どこでも起こっている。

## ■アクティビティ カルチャー&ジェンダーワークショップ■

インドやパキスタンに伝わるヘナアートの体験です。パキスタン出身のシャージさんがフリーハンドで素敵なデザインのヘナアートを書いてくれました。



好きなデザインのステンシル型を使ってみなさん真剣な表情です。



フィリピンに伝わる竹ダンス（ティニクリン）体験です。

皆で声を掛け合って竹の動きと合わせていきます。向き合ってじゃんけんを楽しむ上級者もいました。黄色い民族衣装を着ているのはフィリピン出身のローさんです。熱い指導が入ります。

### 【まとめ】

「小倉英会話カフェ&スクール」と共催したことで、ムーブに来るのが初めてという多くの方にイベントに参加していただけました。例年に比べて英語によるコミュニケーションが活発に行われたようです。



ディスカッションでの、「言われてみれば…」「そういえば…」「考えてみると…」といった参加者の方の「気づき」の言葉が印象的でした。「ジェンダー問題」がより身近なものに感じられたのではないのでしょうか。アクティビティでは行政官の出身国の文化

をともに体験することで、互いの文化の違いを尊重し理解しようとする多様性を認め合う気持ちが強くなったように思えました。

通訳サポーターやファシリテーターをお引受けいただきました皆さん、そして JICA 研修の行政官の皆さん、ご参加いただきました全ての皆様方にお礼を申し上げます。